

今宮高校男子バスケットボールが令和5年度新人大会南地区ベスト16になりました。

(公式戦で2年振りに勝利しました) 文責：岡部 遼太郎、余米 陽士、蔭山 直也、青田 倖典

＜新人大会を終えて＞

今回の大会は自分たちの代になって初めての公式戦でした。今宮高校として2年振りの勝利を掴むことができました。秋の公立大会の経験を踏まえてディフェンスの強化とフィジカル面の改善に取り組んできました。しかし勝ち進んできた私立高校の壁は大きく、チーム力、個人力どちらも一回り上で、自分たちとの実力差を感じました。この貴重な経験を活かして春のインターハイ予選に向けて練習していきます。残り僅かの高校バスケですが、最後まで応援のほどよろしくお願いします。

主将：岡部 遼太郎



2回戦 vs 堺高校 57-43 第1Q 17-7 第2Q 29-20(12-13) 第3Q 49-30(20-10) 第4Q 57-43(8-13)

堺高校の試合はリードを保ったまま勝ちきることができて良かったです。今宮高校はディフェンスが上手く決まり、試合の序盤からいきなり流れを持ていくことができたのが勝ちに直結した一番の理由だと思います。堺高校は1回戦を130点も取って勝ち上がってきた攻撃力の高いチームでしたが、そんな相手に頑張って練習してきたディフェンスが通用して勝てたことがとても自信になりました。

副主将：蔭山 直也



マネージャー自作のお守りが渡される。



3 回戦 vs 桃山学院 37-86 第 1 Q 15-26 第 2 Q 16-36(1-10) 第 3 Q 24-64(8-28) 第 4 Q 37-86(13-22)

3 回戦は南地区ベスト4の一角である桃山学院高校との試合でした。強豪私学との試合ということもありフィジカル面や個人のスキルなど、多くの部分で力の差を感じました。しかしここで負けた経験を活かして、最後の春のインターハイ予選では強豪私学にも勝てるように練習をしていきたいです。

副主将：余米 陽士



中央大会決定戦 vs 大阪明星 38-53 第 1 Q 6-12 第 2 Q 17-25(11-13) 第 3 Q 27-41(10-16) 第 4 Q 38-53(11-12)

大阪明星高校は他地区の東地区で自分たちと同じベスト16に進出したチームでしたが負けてしまいました。負けはしましたが、個人の實力、チーム力ともにこのレベルを相手にしても今後やり合える手応えを得ることができました。

大阪明星高校はオフェンス時に点を得る場所を決めて自分の仕事を全うしていて、試合を通して今宮高校が学ぶ試合でした。

春のインターハイ予選は自分たちの最後の大会なので、自分がやるべきこと、勝つために必要なことについて向き合いながらチームづくりをしていきます。

青田 倅典

